



イヤホンを外してコミュニケーションを!

電車に乗るとイヤホンでiPodやウォークマンで音楽に聞きふける人が多い。そういう若者は、じっと音楽に耽っているように見える。でも、一方では外界に関心を払わなくなっているようにも思う。赤ちゃんを抱っこした女性、杖をついた老人が乗って来ても気がつかない。知人と会っても気がつかないから会話も発展しない。そんな所から、コミュニケーション能力が衰えているのではないかと思う。

2月7日NHKのクローズアップ現代で「鬱(うつ)への「認知行動療法」が取り上げられていた。何かに失敗すると、それで自分は全くダ

メだと思ってしまい、鬱に陥る。でも、実は失敗したのはほんの2、3%で残りは成功していた。それを知って鬱から脱出という放送だった。何だ、これはコミュニケーションの問題ではなかったのか? 失敗したとき周りの人に話していたら「殆どは成功しているよ」と教えてくれる。そうなれば鬱にも陥らないのでは?

コミュニケーションを十分取れるように、人との接点を常に開放しておくことが重要ではないか? 「イヤホンを外して周りの音、周りの風景に関心を払おう」と云いたいのだが、皆さんはどう思われますか?



弘明寺口

六ツ川街道(県道平戸桜木町線)の京急ガード

京浜急行のガードの先を進むと井土ヶ谷。更に桜木町に至る。反対に戻ると六ツ川街道。三キロで東海道と交差する「山谷」。両側は住宅だ。ガード下、道の左側にあるバス停で毎朝通勤通学者が降り、道を渡って京急弘明寺駅に急ぐ。

人通りの絶えないこの道であるが、六十年余り昔、辺りには人家も余り無く、農家が牛車で井土ヶ谷方面に野菜を売りに来ていたという。一九六七年(昭42)頃、この道で餅搗きの臼を作る店を見たことがある。刃の長さ一m位の大きく曲がった鎌のような道具で臼にする木を掘っていた。その頃の名残か、最近まで竹籠作りの店が残っていた。八百屋、肉屋、魚屋があり、銭湯や本屋もあった。今は大部分消えてしまった。小さな店舗は焼鳥屋などになったり、大きなところは「百均」とか、ドラッグストアに変わってしまった。